

みやぎの

2月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.216 2025.2

紹介内容 (1/1~1/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 大河原農改：管内の女性農業者を対象に、ビジネスマナー研修を開催しました
 - 気仙沼農改：令和7年産いちご出荷目揃い会が開催されました
 - 大河原農改：地域計画に関する情報交換会を開催しました
 - 石巻農改：「気象変動に対応する施設園芸セミナー」を開催！
 - 大崎農改：農業分野における「Jクレジット」の活用を考える研修会を開催しました
 - 大崎農改：清水地区の法人化に向けて話し合いが進んでいます
 - 石巻農改：作柄を振り返り、次へ繋ぐ。稲作総合検討会
 - 登米農改：登米地域農業経営セミナーを開催しました！
 - 石巻農改：農業経営者のための「今さら聞けない労務管理」セミナーを開催しました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 亘理農改：農地整備事業を契機とした法人化の話合いが進んでいます
 - 大河原農改：農業法人・認定農業者のための事業承継セミナーを開催しました
 - 登米農改：みやぎ農業未来塾「新規就農者向け簿記研修会」を開催しました！
 - 気仙沼農改：「第54回東北農村青年会議宮城大会・令和7年度全国農業青年交換大会 in みやぎ」で気仙沼地区4Hクラブ員がプロジェクト発表を行いました
 - 大崎農改：大崎4Hクラブが視察研修会を開催しました
 - 気仙沼農改：2025農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会で気仙沼地区生活研究グループ員が発表しました
 - 気仙沼農改：気仙沼地区みやぎ農業未来塾「土壌肥料の基礎研修会」を開催しました
 - 石巻農改：今を見つめ将来に備えよう！若手農業者ライフプランセミナーを開催しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 気仙沼農改：亘理町のいちご先進地視察を開催しました
 - 農業振興課：営農の見える化に向けた「営農管理システム導入・活用講座」を開催しました
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひな地区のえだまめ出荷反省会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米ねぎ部会の品種説明会が開催されました
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツの令和6年産収穫出荷が終了しました
 - 気仙沼農改：南三陸町でぶどうのせん定研修会を開催しました
 - 栗原農改：栗原市果樹連絡協議会主催のりんごせん定講習会を開催しました
 - 大河原農改：みちのくレッド（キウイフルーツ）のブランド化に取組中
 - 亘理農改：若手生産者を対象としたりんごせん定講習会を開催しました
 - 仙台農改：JA仙台根白石果樹部会のりんごせん定講習会及び防除暦検討会が開催されました

- 亘 理農改：令和7年産いちごの輸出が開始されました！
- 石 巻農改：石巻地域で今年も「いちご狩り」が始まりました

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 大河原農改：地域の水田営農を考える研修会を開催しました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 気仙沼農改：JAまつり（第46回気仙沼地域農業祭）が開催されました

- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 石 巻農改：「みどり認定とJ-クレジットセミナー」を開催しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○管内の女性農業者を対象に、ビジネスマナー研修を開催しました

令和7年1月14日

大河原農業改良普及センター



令和6年12月12日大河原合同庁舎会議室において、管内の女性農業者を対象に、大原美代子氏（株式会社スマイルアップ代表取締役）を講師に迎え、「名刺交換で信頼を築く-第一印象から始まるビジネス関係-」と題し、ビジネスマナー研修会を開催しました。

講義では、マナーと第一印象、マナーピラミッド、マナー5原則（表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草・態度）、訪問時の基本（席次、名刺交換）等詳細に教示していただき、次に参加者間で名刺交換を実際に行いました。

参加者は、日頃から名刺交換が必要な場面が多いことから、今後活用していくと好評でした。

普及センターでは、これからも女性農業者の活躍に向けて、様々な方面から支援して参ります。

○令和7年産いちご出荷目揃い会が開催されました

令和7年1月15日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年11月26日、JA新みやぎ階上支店にて、令和7年産のいちごの出荷目揃い会が開催されました。

目揃い会では、JA新みやぎ階上いちご部会生産者7人とJA全農みやぎ、(株)気仙沼青果物流通市場、普及センターが参加し、出荷規格や着色基準の確認を行いました。

普及センターからは、今年度の育苗状況の振り返りと冬季の栽培管理について説明を行いました。

目揃い会終了後、当日の朝に収穫された「とちおとめ」の大きさや着色状態を生産者、各関係機関で試食しながら確認し、今後の栽培管理について意見を交わしました。

○地域計画に関する情報交換会を開催しました

令和7年1月20日

大河原農業改良普及センター



令和7年1月9日、宮城県大河原合同庁舎において農業振興課と連携し地域計画策定推進に係る市町との情報交換会を開催しました。

農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画は令和6年度末までに策定し、市町のホームページ等で公告するよう定められており、昨年度既に策定した1地区を除き管内9市町48地区の地域計画の策定が進められています。今回は今年度の地域計画策定の進捗状況の確認、策定に係る課題解決について意見交換をするため、管内各市町・農業委員会、宮城県農業会議、みやぎ農業振興公社等関係機関を参集しました。

情報交換会では、各地区検討会開催後の「協議結果の公表」、「地域計画への関係機関からの意見・アドバイス等の聴取」、「地域計画案の公告縦覧から地域計画の策定・公告まで」を実施する際の注意点について意見交換を行うとともに、次年度以降の地域計画の見直しに係る作業手順について確認しました。各市町からは今年度末までの計画策定の手順や次年度作業について再確認できたとの話がありました。

普及センターでは、引き続き各市町における地域計画の策定、定期的な見直しについて支援してまいります。

○「気象変動に対応する施設園芸セミナー」を開催！

令和7年1月21日

石巻農業改良普及センター



令和7年1月9日に石巻合同庁舎で「気象変動に対応する施設園芸セミナー」を開催し、生産者や関係機関など約60人の参加がありました。これは近年、高温が施設園芸の作物生産に与えている悪影響を緩和し、また施設内の気流制御により冬の暖房コストを節減することを目的に開催したものです。

最初に千葉大学大学院の中野明正教授から「施設園芸における高温対策の展開」と題して高温での花飛びや落果が作物の生産力を著しく損ない、減収の原因となるため、それらを緩和する技術を紹介していただきました。「遮光」「屋根散水」「ヒートポンプの活用」など広く使われている技術のほか、「酸素剤の活用」や「初期かん水の効用」などの取組についても紹介されました。また、単一技術に頼らず、複数技術を組み合わせることで効果が得られるとのご教示もいただきました。

続いて、宮城大学の伊吹竜太講師からは「換気機器を用いた温室内攪拌と気流制御について」と題して換気の目的、施設内の空気攪拌の意義や方法、適切なダクト送風について説明があったほか、ダクト送風の風圧調整の必要性や施設内での温度ムラ、CO₂ムラを低減するダクト穴の配置などをご教示いただきました。

夏の高温や冬の燃油高騰に対応した対策について参加者は熱心に講演内容をメモしたり、講師に質問するなど、活気にあふれたセミナーとなりました。

普及センターでは今後も関係機関や生産者の皆様と協力し、生産現場における生産性の向上やコスト低減につながる有効な取組を支援していきます。

○農業分野における「Jクレジット」の活用を考える研修会を開催しました

令和7年1月23日

大崎農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターと連携して次代の農業を担う若手農業者の育成や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。当管内の農業士で構成する大崎農業士会では、毎年地域における諸問題の解決策や地域振興などについての研修会を開催していますが、令和7年1月21日に「農業におけるJクレジットの活用」をテーマとした研修会を開催しました。

近年の異常気象により、夏期の高温による作物の生育不良や害虫の異常発生など農業を営むうえでの問題が発生しています。その原因の一つが二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガス（GHG）排出増加によ

る温暖化とされていますが、農業からの排出もその一因となっています。将来にわたり安定した営農を続けていくうえでもGHGの排出量削減は欠くことができないものとなっています。

一方、GHGの排出削減量を国が認証し、これを排出する側の大企業等へ売却する「Jクレジット」制度が存在します。農業はGHGの排出を抑制する手段を有していることから、農業者もその売却益を収入に変えることが可能です。そこで、農家向け脱炭素施策の収益化とカーボンクレジットの流通サポートを行っている株式会社フェイガーの職員の方からJクレジット事業の概要と実践方法について、また、Jクレジットを実践している新みやぎ農業協同組合みどりの統括営農センターの職員の方から実際の活用事例について講演をいただきました。今回、関係機関を含め40名の参加がありましたが、講演終了後は生産者から多くの質問があり関心の高さが伺えました。

普及センターでは、今後も農業士の方々とともに農業をとりまく諸問題の解決に取り組んでいきます。

○清水地区の法人化に向けて話し合いが進んでいます

令和7年1月24日

大崎農業改良普及センター



色麻町清水地区では、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行うことにしており、清水集落営農組合を中心に地域営農体制の検討を進めてきました。その検討の中で、令和7年秋の法人設立に向け、その話し合いが進められています。

令和7年1月16日の話し合いでは、事業目論見書のたたき台を作成するための検討が行われ、参加者同士で意見を出し合い白熱した議論が行われました。今後、地域内での話し合いをさらに深め、令和6年度中に発起人会を立ち上げることでしています。

普及センターでは、今後も関係機関と連携して清水地区の地域営農体制の検討を支援していきます。

○作柄を振り返り、次へ繋ぐ。稲作総合検討会

令和7年1月27日

石巻農業改良普及センター



令和7年1月22日（水）にJ Aいしのまき主催の稲作総合検討会が開催されました。

令和6年産米の宮城県の作況指数は107となりましたが、米の在庫不足から米価が高騰しています。検討会では、米穀情勢について、全農みやぎより「米の在庫は依然少なく、令和7年の主食用米生産面積は増える」と説明がありました。栽培面では今年見られた高温や倒伏といった課題について、普及センターから生育概況と来年の対策、全農みやぎから土づくりの説明があり、参加者は令和7年産の米づくりに向けて、真剣に耳を傾けていました。

令和6年の石巻管内における主食用米作付面積は約6500haで、令和7年はさらに増加する見込みとなっています。当普及センターは今後も安定した収量・品質を確保出来る稲作を推進するため、地域一丸となって取り組んでいきます。

○登米地域農業経営セミナーを開催しました！

令和7年1月29日

登米農業改良普及センター



令和7年1月17日に、登米合同庁舎で「登米地域農業経営セミナー」を開催し、農業法人及び関係機関40人が参加しました。

今回のセミナーは、農業における人材の確保、社員の適性に合わせた業務分担の知識や、地域の実情に合わせた経営を行っている法人の事例を学ぶことにより、円滑な経営につなげることを目的として、仙台市のすずき労務経営コンサルタンツの鈴木大輔代表と栗原市の有限会社川口グリーンセンターの白鳥正文代表取締役から講演をいただきました。参加者は熱心に聴講し、「daywork 活用時の保険の注意点等が為になった」「休業・休職制度の活用といった労務管理の選択肢が増えた」といった反響や、ほかにも「責任と権限を与えることでやる気に繋がる重要性が感じられた」「農業を職業にという言葉は大いに同意できる」といった反響があり、今後の人材確保や労務管理へ向けて意欲的な姿勢が伺えました。

当普及センターでは、引き続き経営向上に向けた支援を実施していきます。

○農業経営者のための「今さら聞けない労務管理」セミナーを開催しました

令和7年1月30日

石巻農業改良普及センター



令和7年1月23日に石巻農業改良普及センター主催で「農業経営者のための「今さら聞けない労務管理」セミナー」を開催しました。

どの業界でも人手不足が課題となっている昨今、農業法人経営を継続発展させていくために、求職者に選ばれる魅力ある会社づくりが必須となっています。そこで、第一部では、すずき労務コンサルタンツの鈴木大輔氏より、選ばれる会社になるために備えておきたい労務管理、決め手となる労働条件の他、求人票の書き方について、具体例も交えながら講演いただきました。第二部では、(株)タイミーの千葉連理様より、スポットワークにより優秀な人材を広く集めるための求人アプリについて紹介いただきました。

農業経営者や従業員等、20人超の参加があり、参加者からは活発に質疑応答がなされ、自身の経営発展を考える前向きな機会になったと思われます。

石巻農業改良普及センターでは、今後も農業経営者のためのセミナーを企画していきますので、ぜひご参加ください。

②新たな担い手の確保・育成

○農地整備事業を契機とした法人化の話合いが進んでいます

令和7年1月10日

亘理農業改良普及センター



名取市下余田2期地区は、農地整備事業を契機に担い手への農地集積を図るため、高柳生産組合が中心となる新法人設立に向けた話し合いが進められています。

12月19日(木)の話し合いでは、新しい乾燥調製施設導入について協議しました。11月の先進地視察を通じ、実際の施設を見学したことで、具体的なイメージが描けるようになり、組合員自身で関係法令を調べる等、試行錯誤しながら納得した上で検討を進めています。また、普及センターから、令和7年度普及指導計画等について説明し、高柳生産組合、J A名取岩沼、名取市役所と次年度以降の取組みについて情報共有しました。

令和7年2月10日(月)には、講師に鈴木大輔中小企業診断士を迎え、法人化勉強会を開催し、専門家の視点から法人化する上での注意点や運営について御助言をいただく予定です。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、担い手育成に努めてまいります。

○農業法人・認定農業者のための事業承継セミナーを開催しました

令和7年1月10日

大河原農業改良普及センター



当普及センターでは、令和6年12月18日(水)に大河原合同庁舎会議室で「事業のバトンタッチをするなら今でしょ! ~代表が元気なうちに思いを伝えてくれてよかった~」と題した農業法人・認定農業者のための事業承継セミナーを開催しました。

管内農業法人で喫緊の課題となっている「事業承継」をテーマに、前半は、事業承継の現状や進め方、人材が定着する環境づくり等について、事例紹介を交えて、宮城県事業承継・引継ぎ支援センターの担当者に講演いただきました。

また、後半は、株式会社 館島田ファーム Dero 相談役の小野良雄様と、専務取締役の大泉太貴彦様から、事業承継の事例等について講演いただきました。

セミナーには、認定農業者や農業生産法人など23名が参加し、「今後も事業承継に関する勉強会に参加したい」、「組織内で定期的な話し合いを始めたい」などの声をいただきました。

普及センターでは、今後も管内農業法人の継承に向けた体制作りについて、関係機関と連携して支援してまいります。

○みやぎ農業未来塾「新規就農者向け簿記研修会」を開催しました!

令和7年1月14日

登米農業改良普及センター



令和6年12月13日に、登米合同庁舎で「パソコンを活用した農業簿記研修」を開催し、新規就農者7人が参加しました。

今回の研修は、若い後継者等を対象に、農業簿記ソフトについて効果的な活用や入力方法を学び、経営管理の向上に寄与することを目的として開催しました。

ソリマチ株式会社の門田リーダーを講師に、簿記の基礎的な部分から実務で気を付けるべきポイントやソリマチソフトの基本的な使い方について学びました。ほぼ一日の研修となりましたが、参加者は集中して聴講・操作しており、パソコン農業簿記への理解を深めているようでした。

当普及センターでは、今後も新規就農者を対象に研修会等の開催や個別巡回による支援を実施していきます。

○「第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎ」で気仙沼地区4Hクラブ員がプロジェクト発表を行いました

令和7年1月14日

気仙沼農業改良普及センター



「第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎ」が令和6年10月30日、31日に開催され、東北の農業青年によるプロジェクト発表・意見発表や県内の視察研修などが行われました。

1日目のプロジェクト発表の部では、宮城県代表として気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会の佐藤友耶氏が「宮城県オリジナルいちご品種『もういっこ』の導入による経営課題の解決」をテーマにプロジェクト活動の成果について発表を行いました。受賞はなりませんでしたでしたが、今回のプロジェクトの取組を通じて、今後の農業経営のさらなるレベルアップが期待されます。普及センターでは、今後も4Hクラブの活動を支援していきます。

○大崎4Hクラブが視察研修会を開催しました
令和7年1月24日
大崎農業改良普及センター



4Hクラブは、農業技術等の改善・研究活動や同世代の農業者の仲間づくりを行っている20代から30代の青年農業者の全国的な組織です。そのうち、大崎管内の青年農業者で組織された大崎4Hクラブは、将来の地域農業の担い手として期待される青年農業者13人で活動しています。

当クラブでは、令和7年1月14日に先進的な生産技術の活用や多様な販売などの取組を勉強するため、視察研修会を開催し、5人が参加しました。

まず、有限会社マルセンファーム（大崎市鹿島台）を訪問し、千葉代表から「デリシャストマトやキクなどの施設園芸及び水稻の複合経営」について、施設を見ながらお話をお伺いしました。次に、菜園レストラン「野の風」（美里町南郷）では、こだわりの自家栽培米と旬の野菜を中心としたメニューの昼食をいただきました。最後に、農産物直売所「花野果市場」で地場産品の販売状況を視察しました。参加者は、それぞれ、自身の経営の参考になったようです。

普及センターでは、今後もクラブ活動を支援していきます。

○2025 農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会で気仙沼地区生活研究グループ員が発表しました

令和7年1月28日
気仙沼農業改良普及センター



令和7年1月16日に「2025 農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会」が開催され、農山漁村女性の活動発表において、気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の三浦悦子氏が自身の活動を紹介しました。

三浦氏は、令和5年度宮城県農業・農村女性活躍表彰の女性地域社会参画部門（個人）で最優秀賞を受賞しています。今回の発表では「一步を踏み出す力」と

題し、プロイラー経営の安定化に取り組む一方、長年農業委員等を務め、令和6年に気仙沼市農業委員会会長に就任した経緯を紹介し、これまでの活動経験から、「チャンスやきっかけを受け入れ、多くの人と出会うこと」と次の世代にエールを送りました。

普及センターでは、引き続き女性農業者の活躍に向けて支援していきます。

○気仙沼地区みやぎ農業未来塾「土壌肥料の基礎研修会」を開催しました

令和7年1月29日
気仙沼農業改良普及センター



気仙沼地区みやぎ農業未来塾として「土壌肥料の基礎研修会」を令和7年1月20日に開催し、若手農業者等9人が出席しました。

研修会では、宮城県古川農業試験場作物環境部瀧典明首席主任研究員から、「土壌肥料の基礎と化学肥料削減に向けた取組について」と題し、土壌物理性・化学性の改善等の基礎知識のほか、残肥に応じた施肥や堆肥の活用等の化学肥料削減に向けた取組について講義いただきました。その後の質疑応答では、参加者それぞれの栽培品目やほ場の状況などに応じた疑問点について多くの質問が挙がるなど、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も新たな担い手の確保・育成に向けて支援していきます。

○今を見つめ将来に備えよう！若手農業者ライフプランセミナーを開催しました

令和7年1月29日
石巻農業改良普及センター



令和7年1月17日に、石巻農業改良普及センターの主催で、管内の若手農業者を対象に、ライフプランセミナーを開催しました。

今回は、ファイナンシャルプランナーの佐藤美和子氏を講師に迎え、ライフプランの重要性や、教育資金、老後資金など、人生のライフイベントに備えるた

めの資金準備について講義をいただきました。

受講者は講義に刺激を受けた様子で、「お金の話は普段聞けない内容なので来てよかった。とても勉強になった」、「教育や保険について、さらに深掘した話を聞いてみたい」、「第2回があってもいい。あればぜひ参加したい」といった声も聞かれ、講義後も質問が途切れず、今回の内容に対する関心の高さがうかがえました。

石巻農業改良普及センターは、地域農業の将来の担い手である青年農業者の育成を引き続き支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○亘理町のいちご先進地視察を開催しました 令和7年1月15日 気仙沼農業改良普及センター

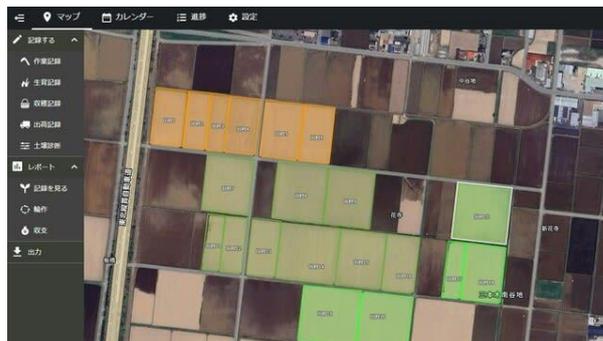


令和6年11月19日、管内のいちご生産者を対象に、冬季の環境制御方法を学ぶため、亘理町のいちご生産者のほ場視察といちご選果場の見学を行いました。

視察には、JA新みやぎ階上いちご部会生産者5人と各関係機関職員3人が参加し、視察先の生産者から冬季の環境制御方法や紫外線照射による防除事例などを説明していただきながら情報交換を行いました。参加した生産者からは雇用体制、換気の省力化や夏季の育苗方法、などの質問も出され、有意義な視察となりました。

普及センターでは、今後も各関係機関と連携し、管内のいちご生産振興に努めていきます。

○営農の見える化に向けた「営農管理システム導入・活用講座」を開催しました 令和7年1月23日 農業振興課



令和7年1月8日（水）、県石巻合同庁舎を会場に営農管理システム導入・活用講座を開催しました。多くの方に受講いただけるようオンライン配信も行い、農業者や農機メーカー、その他関係機関など会場とあわせて約100人に参加いただきました。

営農管理システムは、ほ場の場所や作付計画、作業日誌などをデータで登録することで、営農活動の見える化や情報共有ができ、農業の効率化に資するスマート農業技術の一つです。県内でも大規模法人を中心に導入が進んでいますが、中小規模の法人や個人農家でも導入効果があるため、より多くの農業者に使ってもらえるよう講座を開催しました。

講座では、主要な営農管理システムである「アグリノート」を提供しているウォーターセル株式会社の渡辺氏に、営農管理システムの導入方法や、メリット、効果的な活用方法などを紹介いただきました。また、農業革新支援センターからは、土地利用型農業で効果的な3つのシステムとして、ウォーターセル株式会社の「アグリノート」、株式会社クボタの「KSAS」、全国農業協同組合連合会の「Z-GIS」の3つを取り上げ、それぞれの特徴や導入コストなどを紹介しました。

講座の最後には個別相談会を行い、2社の農業法人が導入に向けた悩みを講師や普及指導員に相談しながら、システムの導入や効果的な活用に向けて情報収集していました。

県では、営農管理システムに関する指導や助言など、スマート農業の普及に向け農業者を支援しています。ご興味のある方は、各地域の農業改良普及センターや県農業革新支援センターにお気軽にご相談ください。

④園芸産地の育成・強化支援

○JA新みやぎあさひな地区のえだまめ出荷反省会が開催されました 令和7年1月10日 仙台農業改良普及センター



あさひな地区のえだまめ生産は、大郷町内の6農業法人で行われており、栽培面積は前年より3ha増加し9.3haで作付けされ、総出荷量で36tでした。

平均単収は410kg/10aで前年よりも40kg減少しました。これは、播種の早い早生系品種で、播種後に高温が続いたことで花芽分化が早まり、茎葉が繁茂する前に開花・着莢が始まったため、単収が300kg/10a以下となったことが要因です。中生種以降の品種では、前年並みからやや多い単収となりました。

品質は、A品率が68%と前年の80%を下回ってしまいました。これは、カメムシ類等の虫害莢や収穫遅れによる莢の黄変が要因と考えられます。

これらを踏まえ、年明けの1月に令和7年産作付検討会を開催し、作型や品種、病虫害防除対策等を検討します。

参加した農業法人からは、次作に向けて栽培面積の拡大と高品質生産への取り組みを一層強化したいとの意見が出されました。

普及センターでは、水田を活用した露地野菜等の導入による経営の安定化に向けた取組を支援してまいります。

○JA みやぎ登米ねぎ部会の品種説明会が開催されました

令和7年1月14日

登米農業改良普及センター



令和6年12月10日に、登米市中田町でJAみやぎ登米ねぎ部会の品種説明会が開催され、部会員22名が参加しました。

品種説明会では、有限会社兵藤種苗商事から、品種それぞれが持つ特性や、適正な環境・管理について説明がありました。また、JA全農みやぎから、令和7年の4月から変更されるねぎの統一段ボールと出荷規格について説明があり、普及センターからは、今年度の気象経過と病虫害の発生状況について情報提供しました。今夏も高温による影響により、被害を受けた生産者が多く、参加者は終始真剣に話を聞いていました。

その後、部会長による箱詰めと播種の実演が行われ、今年度から新規参入した生産者や資材の更新を考える生産者に対し、作業性や実際にかかる時間などを細かく解説していました。

普及センターでは、今後もねぎの栽培技術向上と安定生産に向け、支援を行って参ります。

○枝もの用クロマツの令和6年産収穫出荷が終了しました。

令和7年1月14日

気仙沼農業改良普及センター



南三陸町で枝もの用クロマツ栽培に取り組んでいる株式会社南三陸パインプロの令和6年産の収穫出荷作業が終了しました。

令和6年10月21日から収穫が始まり11月25日までの約1か月間で60アールの収穫が行われ、また、収穫した枝もの用クロマツは、出荷調製作業場に運ばれて、太さ、長さ、枝ぶり等の規格に選別され、11月28日から12月20日まで大阪の花き市場へ出荷されました。

令和6年産は、門松や玄関飾りに使われる「若松」が20万本、生け花やフラワーアレンジメントに使われる「小松」が3万本の合計23万本、販売額は前年比120%という結果でした。

株式会社南三陸パインプロの後藤代表は「出荷本数には満足しているが、昨年度より単価が低くなり、想定していたより販売額が上がらなかった」と語っています。

普及センターでは、令和7年産の枝もの用クロマツの栽培も継続して支援していきます。

○南三陸町でぶどうのせん定研修会を開催しました

令和7年1月14日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年12月19日、南三陸町を会場に管内の生産者を対象にした今年度3回目のぶどう栽培研修会を開催し、生産者11人が参加しました。普及指導員が講師となり、冬期の重要な栽培管理である整枝せん定や、芽傷処理等のせん定後の管理について、実演を交えて説明を行いました。当日は気温が低く、冬の寒い寒さの中でしたが、参加者からは多くの質問が

挙がったほか、活発に意見交換をする様子が見られ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

○栗原市果樹連絡協議会主催のりんごせん定講習会を開催しました
令和 7 年1月21日
栗原農業改良普及センター



令和 7 年 1 月 10 日 (金)、栗原市果樹連絡協議会会員等 16 名が参加し、栗原市金成小堤にてりんごせん定講習会が開催されました。

栗原市果樹連絡協議会では、毎年この時期にせん定講習会を実施し、会員相互の技術研鑽に努めています。当日は、あいにくの雪模様でしたが、前年から対象となっている樹に対して、せん定方針に基づき主枝を 4 本から 3 本にし、その後各主枝の成り枝の間隔を整理するなどのせん定を行いました。

せん定は、りんご生産においても重要な作業であるため、参加者からは様々な意見、質問が出されるとともにお互いに意見交換を行うなど、活発な講習会となりました。

せん定を実施した樹は、来年まで生育状況や栽培管理状況を把握して、栗原市果樹連絡協議会の検討会で活用されます。

○みちのくレッド(キウイフルーツ)のブランド化に取組中
令和 7 年1月21日
大河原農業改良普及センター



川崎町では、園芸振興策の一つとしてキウイフルーツ「みちのくレッド」の生産とそのブランド化に取り組んでいます。生産者は「キウイフルーツ振興会」(事務局：川崎町農林課)を組織し、令和 6 年度には各生

産者のほ場巡回や先進地視察、ブランド化を目指した販売会等の活動を行っています。

令和 6 年 12 月 10 日には振興会員の果樹園にて栽培講習会が開催され、令和 7 年の生産に向けたせん定実技等を行いました。普及センターから資料説明を行った後に、参加者同士でも情報交換を行うなど、生産・販売・知名度の向上について検討されました。

今後も振興会では講習会や現地検討会等を計画しており、普及センターでは振興会と連携して、継続的な支援に取り組んでいきます。

○若手生産者を対象としたりんごせん定講習会を開催しました
令和 7 年1月28日
巨理農業改良普及センター



令和 7 年 1 月 17 日に若手生産者を対象としたりんごせん定講習会を開催し、11 名の若手りんご生産者が参加しました。

講師は管内のベテラン生産者が務め、マルバカイドウ台「ふじ」を対象に、樹形の作り方やせん定の手順を解説しながら実演が行われました。

若手りんご生産者は日頃から技術研鑽に熱心で自主的に技術交流を行っており、寒い日にもかかわらず長時間にわたり主枝の作り方や若木のせん定など多くの意見が出され、講師から丁寧な解説があり、普及センターからも助言を行いました。

当普及センターでは、今後も技術交流を通じて若手りんご生産者の育成支援を行っていきます。

○JA 仙台根白石果樹部会のりんごせん定講習会及び防除暦検討会が開催されました
令和 7 年1月30日
仙台農業改良普及センター



J A仙台根白石果樹生産組合（りんご）のせんだい講習会及び防除暦検討会が令和7年1月17日に開催され、部会員3人が参加しました。

午前中のせんだい講習会では、部会員のほ場で、まる葉台の樹を使って普及センター職員が実技指導しました。せんだいでは、受光態勢の改善や薬剤のかかりやすさ、作業性の向上等を目的とした枝の間引きと小枝の整理方法について指導しました。意見を交わしながら枝のよし悪しを見極めて技術向上を図りました。

午後は根白石支店で、普及センター職員が講師となり、今年度の生育概況や病害虫の発生状況の総括を説明後、今年度の防除時期や病害虫発生状況の振り返りを実施し、今年度の課題等を次年度の防除計画に反映させた防除暦（案）が策定されました。また来年の花粉の確保方法、凍霜害対策についても話し合いました。たくさん情報交換がなされ、有意義な研修となったようです。

普及センターでは、今後も情報提供や技術指導を行い、J A仙台根白石果樹生産組合の安定生産を支援していきます。

○令和7年産いちごの輸出が開始されました！ 令和7年1月30日 巨理農業改良普及センター



当県では、いちご生産者及び食品商社と連携し、令和5年1月から海外の「DON DON DONKI」に向けた県産いちごの定期・定量輸出に取り組んでいます。輸出3シーズン目の令和7年産では、輸出先を6か国・地域（タイ、シンガポール、マレーシア、香港、台湾、グアム）、合計20万パック（50トン）の輸出を目指しています。

輸出するのは、当県オリジナル品種「もういっこ」、「にこにこベリー」を含む7品種で山元町や巨理町を含む県内5市町の生産者が育てたいちごです。

令和7年1月15日（いちごの日）に、山元町の（株）ごえん、（株）燦燦園、山元いちご農園（株）から輸出専用パックに包装されたいちごが香港向けに今期初出荷されました。（株）ごえんの飯田代表は、「3シ

ーズン目で作業も慣れ、生産性も上がってきている。今年はより品質にこだわっているので、お客様に喜んでほしい。」と意気込みを話してくださいました。

当県では、いちご輸出を通じて海外での宮城県のファンづくりにも力を入れています。当普及センターでは、いちごの輸出拡大に向け、栽培技術や病害虫防除等について引き続き支援していきます。

○石巻地域で今年も「いちご狩り」が始まりました 令和7年1月31日 石巻農業改良普及センター



石巻地域（石巻市、東松島市）はいちごの生産が盛んで、個人の農業者や農業法人が園芸施設約15haで栽培しており、県内第2位の産地となっています。

令和6年の夏も猛暑だったことから、苗の管理やその後の栽培管理に苦勞が絶えない日が続きましたが、その苦勞が実り、多くの生産者が昨年12月から出荷を始め、年が明けた1月からは農業法人を中心に「いちご狩り」が始まりました。

「いちご狩り」は、農場により「とちおとめ」「紅ほっぺ」「恋みのり」「よつぼし」や宮城県育成品種の「もういっこ」「にこにこベリー」など多くの品種を味わうことができます。また、お土産としても色々な品種が購入できます。「いちご狩り」は、料金、開催日、品種、予約の要・不要など農場により異なりますので、お越しの際は各農場のホームページなどで事前にご確認ください。色々な品種を食べ比べ、是非石巻地域のいちごの魅力をご堪能ください。

これからも普及センターではいちごの生産振興に向け、いちご生産者を支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○地域の水田営農を考える研修会を開催しました 令和7年1月14日 大河原農業改良普及センター



令和6年12月24日、村田町の菅生公民館において「菅生地区水田営農研修会」を開催しました。

菅生地域の水田営農を担う生産組合や法人、大規模農家等12人が参加し、普及センターから水稲における土づくり技術や、農業経営の法人化について講義を行ったほか、農業経営基盤強化促進法に基づく「地域計画」の確認を行いました。

水稲における堆肥活用による地力改善のポイントでは、リン酸不足の水田で豚ふん堆肥を活用したことで収量アップに繋がった事例を報告し、農業経営に関する研修では各種営農形態の特徴や違いについて説明しました。参加者からは「豚ふん堆肥の活用を進めたい。」「法人化についてさらに学びたい。」といった感想があり、次年度も地域計画の見直しを併せて地域の担い手に向けた研修会を開催する方向となりました。

普及センターでは、引き続き地域の水田営農に取り組む担い手を支援して参ります。

令和7年1月15日午後、JAいしのまき農業情報センターで、「みどり認定とJ-クレジットセミナー」を開催しました。

まず、当事務所から、「みどり認定の概要」を説明後、「(有)大郷グリーンファーマーズ」西塚代表から会社のこれまでの歩みや、有機農業、みどり認定に取り組んでみての話をいただきました。また、みどり認定やJ-クレジットは、生産者メリットが見えづらい課題があるが、時代に合致した取組だとのお話もありました。

また、農業由来の温室効果ガス排出低減した農家と温室ガスを排出する企業との仲立ちを行う「株式会社フェイガー」の松谷達馬氏からJ-クレジットについて紹介があり、対象技術である水稲の中干延長の方法について説明がありました。宮城県内においても5つのJAが取組んでいるとのことでした。

今後も普及センターでは、環境に配慮した持続的な農業生産を支援していきます。

2. **持続可能な農業・農村の構築**

① **地域資源の活用等による地域農業の維持・発展**

○JAまつり(第46回気仙沼地域農業祭)が開催されました
令和7年1月14日
気仙沼農業改良普及センター

「JAまつり(第46回気仙沼地域農業祭)」が令和6年11月10日にJA新みやぎ気仙沼支店構内の特設会場で開催されました。当日は、地域の農林産物、加工品等の販売や餅まきイベントが行われるなど、大勢の来場者がつめかけ、大盛況でした。

JAまつりの一環として開催された「農産物共進会」には、JA新みやぎ南三陸地区管内から玄米、野菜、果樹など計224点が出品・展示されました。前日の11月9日に行われた審査会では、普及センター職員も審査にあたり、金賞5点、銀賞7点、銅賞15点を選定しました。地場農産物の質の高さを地元消費者等に広くしていただく良い機会となりました。

② **環境に配慮した持続可能な農業生産**

○「みどり認定とJ-クレジットセミナー」を開催しました
令和7年1月22日
石巻農業改良普及センター



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.216

発行日:2025年2月27日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp